

2021年度 トピックス 1

「環境ESD演習Ⅰ・Ⅱ」 フィールドスタディ(長崎県対馬市)

対馬の実践者に学ぶ、持続可能な社会への挑戦
—『多様な共生』(想像)と『開拓精神』(創造)—

現地での活動内容

■第1回目(2021年7月9日～11日)

7月 9日 博多港⇒厳原港(フェリー船中泊)到着

7月10日 フィールドワーク(インタビュー調査・意見交換)

◎ツシマヤマネコ米認定田見学(人と自然の共生のための環境保全)

◎株式会社対馬地球大学(廃校舎を活用した地域づくり)

◎一般社団法人MIT(自然共生型の持続可能な島をつくるデザインコーディネート)

7月11日 フィールドワーク(インタビュー調査・意見交換)

◎一般社団法人対馬里山繋ぎ塾(持続可能な社会実現のための価値観を育む教育事業)

厳原港⇒博多港 帰着

■第2回目(2021年10月30日・31日)

10月30日 博多港⇒厳原港 到着

フィールドワーク(インタビュー調査・意見交換・農泊体験)

◎農家民宿手づくりの宿(自給自足による持続可能な暮らしと農泊を通じた「場」づくり)

10月31日 厳原港⇒博多港 帰着

▶スケジュール

本プログラムは事前学習・現地実習・事後学習(報告)の3段階で実施しました。

1. 事前学習(2021年4月～2021年7月)

→対馬の概要や課題解決の取り組みについての学習、学生の興味関心や課題意識の意見交換等

2. 現地実習(2021年7月9日～11日[2泊3日]、2021年10月30日・31日[1泊2日])

3. 事後学習(報告)(2021年7月～2022年3月)

→授業「環境ESD入門」で発表

→対馬へフィードバック(企画提案)



福岡から約130km、韓国から約50kmに位置する国境の島・長崎県対馬は、「自立と循環の宝の島」として島の持続可能な発展のために先進的な取り組みを続け、現在はSDGs未来都市に選定されています。今年度の副専攻環境ESDプログラムでは、対馬の多様で美しい自然や伝統食にふれつつその背後にある課題や人と自然の共生の様子に触れるとともに、現在島内で活躍する実践者の方々と訪問し現場で交流を行うことで、学生が課題発見・課題解決に向けたチャレンジ精神を育みながら、持続可能な社会づくりに貢献する人材として自己と社会との関わりについて考え、自分の将来を描く機会へと繋げていくことを目的として、島内5か所でのフィールドワーク実習報告と課題解決のための企画提案を行いました。



参加学生のコメント

法学部 3年 曾我 遥香

コロナ禍もあり、今年は国内での演習フィールドワーク先を決めるにあたって、縁あって長崎県対馬市に伺うことができました。地理的には博多港からフェリーで5時間という辺境の場所にあるように感じられる対馬ですが、訪れてみると世界の未来に対する目線をしっかりと持ち、持続可能な社会を実現するにあたって先駆的な役割を担っている人が多いことに驚きました。最近は何事においてもグローバル化・利便性のための発展を追い求める傾向がありますが、日常生活で見落としがちな何気ない「幸せ」の在り方について改めて自分自身に問うきっかけを2度の訪問は与えてくれました。対馬での様々な食文化・歴史・人との繋がりなどを通して、私自身、より幅広い価値観を持つようになり、将来の生き方を模索するにあたっての選択肢を広げておくことの重要性についても改めて感じる事ができた旅でした。

外国語学部 3年 大庭 早貴

今回の環境ESD演習は、長崎県の対馬でフィールドワークを行いました。対馬で先駆的な活動をされている方々へのインタビューから様々な気づきを得ました。例えば、「当たり前」に目をつけて「価値づけ」できることや、「謙虚で真摯な姿勢が人を巻き込む力になる」などです。各団体が「持続可能な社会」という大きな目的に向かって、それぞれができることに取り組んでいる姿を見て、私も持続可能な社会に取り組む一人になりたいと思うようになりました。演習では、自分たちで問いを見つけて、自分たちなりの答えを見つけていく機会がとて多かったのも、たくさん頭を使いましたが、この1年間で「自分で考える力」を養えた実感できています。



地域創生学群 2年 吉盛 唯織

私は北九州市出身なのですが、まだ市外の地域に行った経験がなく、大学在学中に経験しておきたいという思いから環境ESD演習を受講しました。対馬の自然環境の実態や、それらの問題解決のための活動について、実際に五感を使って知ることで、普段の授業以上に印象に残る、とても大切な経験をする事ができました。また、対馬では環境問題とその取り組みについて学ぶだけではなく、人の温かさや対馬で活動している方々の熱意をたくさん感じる事ができました。それと同時に、私個人の『環境』についての認識の狭さも痛感し、真の意味で『環境問題』に向き合う事ができたと思います。この環境ESD演習での経験は、今後の私の考え方や行動に深く影響を与えるものになったと感じています。これから3年生になり、インターンなどの就職活動の準備が始まりまるという時期に、とても良い刺激になりました。この経験を得ることができて、とても感謝しています。

地域創生学群 2年 大友 天

私が対馬のフィールドワークで学んだことのなかで最も驚いたことは「対馬に住んでいる地元の人は対馬にある自然や生き物について、あまり関心をもっていない」ということです。対馬は対馬にしか生息していない希少種や絶滅危惧種がたくさんいて、それはとても珍しいことで当たり前のことではないです。また絶滅危惧種や希少種というのは対馬で絶滅すると世界からその生き物がいなくなってしまうことであるのに、地元の人々の「関心がない」というのを私は問題だと感じました。しかしそのような関心のない人もいの中で、取材をさせていただいた方々はそのかけがえない対馬を守るために活動されていました。それぞれ対馬を守るためにアプローチする方法は違いますが、「対馬のために行動する」という思いはみなさん一緒なのだと感じました。私は対馬にフィールドワークに行って、さらに地元である北九州市に自分なりの形で何か行動を起こしたいと思いました。